

経営比較分析表（平成29年度決算）

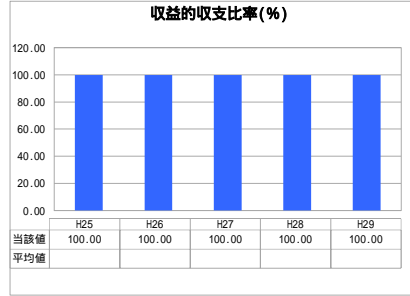
高知県 四万十町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	1.96	100.00	2,790

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,528	642.30	27.29
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
340	0.24	1,416.67

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



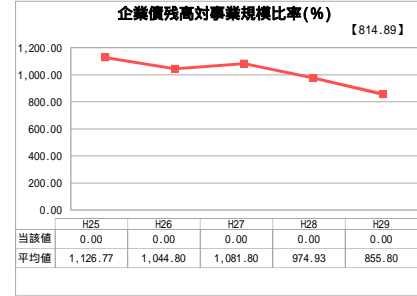
「単年度の収支」



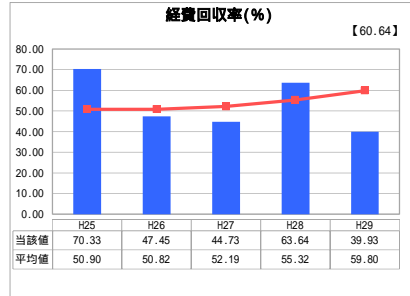
「累積欠損」



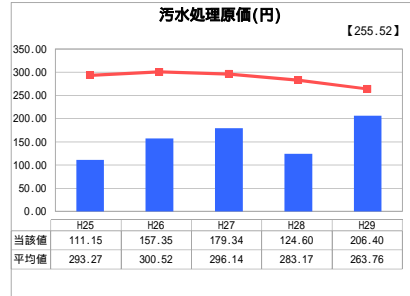
「支払能力」



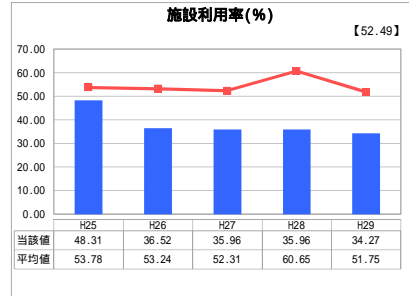
「債務残高」



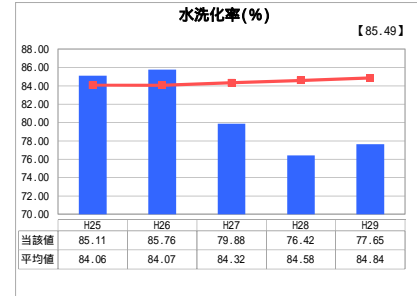
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

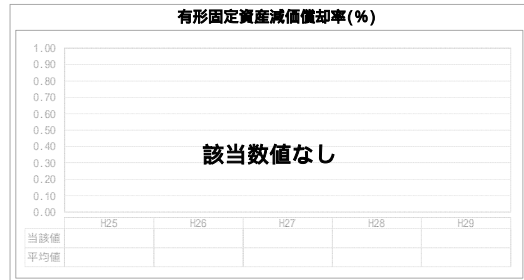


「施設の効率性」

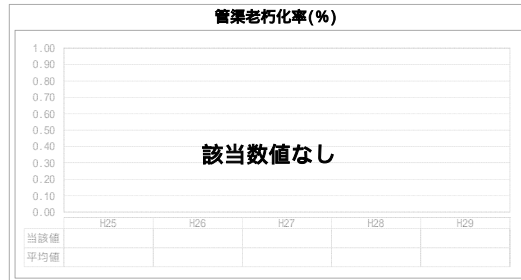


「使用料対象の捕捉」

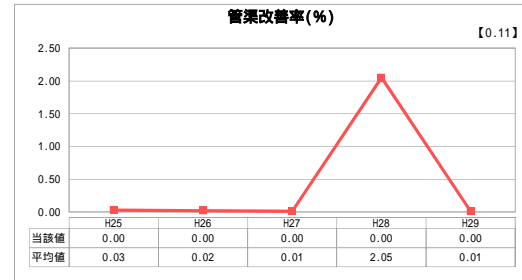
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

四万十町の農業集落排水施設は2か所あり、2か所とも処理場および管路は整備済みである。現在の主な支出は建設時の起債の償還と機器の修繕費が主となっている。

今後は老朽化した機器の更新が必要であるが、使用料収入の増加は見込まれないことから、国庫補助事業（農山漁村地域整備交付金）を活用しての整備計画策定や修繕が必要となると考える。

平成29年度は多くの機器で修繕が必要となり、汚水処理原価が過去5年間で最大となり、経費回収率も下がってしまった。収支不足は他会計からの繰入金に依存しており、今後も修繕が多くなってくることから、料金改定を視野に入れた見直しが必要と言える。

水洗化率は転入者の増加により低下しているが、今後は未加入者を対象に農業集落排水施設の必要性を訴え、水洗化率の向上を目指す。

2. 老朽化の状況について

町内の農業集落排水施設は宮内地区が平成13年より、江師地区が平成9年より稼働しているが、近年設備の不具合が徐々に発生している。水処理の要となるポンプやプロア類については、町の単独費で修繕・交換をしているが、機器類の老朽化により突発的に機器が作動しなくなる恐れがある。

そのため平成29年度より順次施設の機能診断を行い、その診断結果から最適整備構想を策定し、計画的に修繕・交換を行い機器の更新を行っていく予定である。

全体総括

面的整備が完了していることから、今後も維持管理を適正に行っていくとともに、いっそうの経営の健全化に取り組んでいく必要がある。

また、施設の最適化構想を基に老朽化した機器等の更新や点検修繕を適切に実施し、より確実な水処理を目指し、町民の生活環境の向上に努めていく。

法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。